

## ■消化器系

- ・胃潰瘍：間欠的に焼けるような胃の痛みが起こります。他のレメディと併用、または一般治療の補助として使用します。
- ・食道狭窄：通常の治療の補助として使用します。胸骨の裏側に激しく焼けるような、絞扼されるような痛みがあります。

- ・口角炎：ときに潰瘍化しています。
  - ・裂肛：直腸粘膜と皮膚の移行部が潰瘍化しています。
  - ・胃癌
  - ・食道癌
- その他
- ・腫瘍、肉腫、腺癌：補助として使用します。

## Conium maculatum 毒ニンジン [石のように硬い腫瘍や腺、老齢の疾患]

Conium maculatum L.

### BACK GROUND

Conium は、ヨーロッパ原産のセリ科ドクニンジン属の植物で、現在はアジア、北アフリカ、北米各地の乾燥した荒地に自生しています。一般的に Poison-hemlock, Spotted-hemlock と呼ばれている、1年草または多年草です。地中にカブのような根茎をもち、茎は空中で大きく分枝して広がり、表面に紫色の斑点があるのが特徴です。葉は2、3回羽状の複葉で、小葉は卵状の皮針形で長さ1〜3cmになっており、さらに細かく羽状深裂しています。この葉の形がニンジンに似ているため毒ニンジンとも呼ばれています。7〜9月に大型の複散形花序として、白い小さな花のかたまりを咲かせます。その花姿は、フワフワした白い手毬のようにも見えます。



植物全体が有毒ですが、とくに種子や根に猛毒のアルカロイドであるコニインが多く含まれていて、食べ

ると中枢神経や運動神経末梢を麻痺させ、呼吸困難を起こして死にいたります。他の成分として、コニインよりもさらに毒性の強いコニセインが含まれていることがわかっています。これらの有毒成分は、夏の晴れた暑い日は、曇りの日よりも毒性が強くなる傾向があり、毒性濃度は天候に左右されます。また、涼しい地域のものは、暖かい地域のものと比べて、毒性が少ないという説もあります。根の部分だけは、あまり気温や湿度の影響を受けないようです。

プラトンの著『Phaedo』に、哲学者ソクラテスが処刑のために毒人参を飲んでから、死にいたるまでの様子が描かれています。ソクラテスが毒人参を飲んだ後、足が重たくなるまで歩きまわり、横になってから、足先、膝、というように体の末端から麻痺していく様子や会話が記録されています。

少量から中等度の摂取では、筋肉の無力化、視覚障害、頻脈、頻呼吸などが起こります。

多量の摂取では、吐き気、嘔吐、下痢、口渇などの胃腸症状に引き続き、神経系の症状が発現してきます。

第1期—興奮期：ふるえ、感覚過敏、とくに視覚や聴覚の過敏、神経痛が起こります。一時的な精神錯乱、幻覚、痙攣などが起こることがあります。

第2期—中枢神経系の麻痺：下肢のほうから体の頭側方向に筋肉の麻痺が広がっていきます。胸部と横隔膜の筋肉が麻痺して呼吸が止まります。窒息して亡くなるまでの間、意識は明瞭で、精神状態も正気を保っていられます。

また、Conium は古代ローマでは、てんかん、腫瘍などの治療に使われたほか、ギリシアのディオスコリデスやローマのプリニウスは1世紀に、性欲を抑えたり、痛み止め、皮膚病治療剤、神経異常、乳腺腫瘍な

どに、この植物を用いたと記録しています。15～16世紀の修道士たちは、この植物の根を炒って、痛風の痛み止めとして使用していました。19世紀のヨーロッパでも、Coniumは伝統医学の中で、痛み止めとして使用されていました。ホメオパシーでは、根を含むこの植物全体を使用します。Coniumは、ギリシア語のkoneion毒ニンジンに由来し、もともとはギリシア語のkonosめまい、koneisthai旋回運動に語源があると言われています。種小名のmaculatumは、斑点を意味し、茎の斑点に由来します。

## MATERIAL

7月に実が熟す前に花の部分の採取して、マザーティンクチャーをつくります。マザーティンクチャーの中には、毒性の強いコニインやコニセイン、シクチンをはじめ、コンヒドリン、メチルコニイン、シュードコンヒドリンなどが含まれています。

## FIRST PROVING

ハーネマン（『Chronic Diseases, Materia Medica Pura』第4巻）

## MIND

Coniumは、はっきりしたConstitutionalタイプはありませんが、次の場合にはよく効きます。

- 寝汗をかく（寝るとすぐに）、怖い夢を見る
- 塩が大好き、酸っぱい物とコーヒーが好き、牛乳を嫌う、あまり食欲がない
- 性的な問題を抱えている。性欲を抑えると、症状が悪化することがあります。
- 年齢よりも早く老け込んでいるタイプ
- 無口で脳の老齢性萎縮の症状があり、麻痺や排尿困難がある。
- 長期にわたり、性交渉をしていない。

## AFFINITY

Coniumは、主に神経系、筋肉、腺（とくに乳腺、卵巣をはじめとする生殖器）、呼吸器系に親和性をもっています。

## CLINICAL APPLICATIONS

臨床では、このレメディは主に、神経系の変性疾患、泌尿生殖器系、腫瘍に使用します。一般的に、生命力の衰えた老齢のレメディです。

### ■神経系

- ・痴呆：考える力が非常に鈍くなります。感情も内に閉ざしてしまいます。

- ・めまい：高齢者に多く、慢性的なめまいです。目を閉じることで改善します。頭を動かすことや立ち上がったときに悪化します。横になったり、寝返りで悪化します。何かにつかまることで安定感を感じます。低ポテンシーで、長期に処方すると効果的です。
- ・運動失調
- ・多発性硬化症
- ・神経変性性疾患
- ・脊髄変性症：上行性に麻痺し、痛みを伴いません。
- ・種々なタイプの麻痺：神経性嚥下困難、便秘など。
- ・老齢性の無気力
- ・うつ状態
- ・ふるえ：とくに排便後

### ■泌尿生殖器系

- ・乳腺症（乳腺萎縮、乳腺の線維囊胞性変化、）
- ・乳腺炎：とくに右側。硬結し、大きく腫れます。
- ・泌尿生殖器系の癌や嚢胞（とくに乳腺腫瘍、乳腺癌）
- ・断続的な排尿を呈する排尿困難（前立腺疾患、初期の前立腺癌、卵巣嚢腫、膀胱尿管逆流などによる）
- ・インポテンス、性欲は持続するのに途中で射精してしまう場合
- ・前立腺炎

### ■その他

- ・足のしびれ
- ・甲状腺機能亢進症
- ・各種癌、腫瘍（Wide-spectrum cancer remedyとして）：石のように硬い腫瘍や腺に対して使用します。とくに食道、頸部の腺、乳腺、胃、肝臓、子宮、卵巣、前立腺、精巣の癌、そして骨に転移した例に使います。
- ・眼の疾患（光線過敏症で涙が出てくる）：角膜潰瘍、結膜炎、角膜炎、外傷後の白内障

## MODALITY

- 暑さ、暗闇（光線過敏症の場合）：肢を伸ばす（神経痛の場合）
- 動く物を見ること（頭や目を動かすこと）、アルコール、体や精神的な傷、宗教的理由からの禁欲、過度の性交渉、寒さ、風邪を引くこと、頭を低くして寝ること、寝返りを打つこと、きつい洋服を着ること、夜、立っていること、月経前と月経中、乾いた暑い空気、春、凍える空気など

## RELATIONS

- ・Complementary：Tuberculinum